

令和3年度 旭川市工芸センター運営委員会 会議録（要旨）

日 時 令和3年7月28日（水） 14:00～15:20

場 所 オンライン開催

出席者 （委員）吉田委員長，關口委員，河野委員，三津橋委員，井上委員，
稲垣委員，渡辺委員，佐藤委員，笹川委員，岩永委員，中村委員
（事務局）三宮経済部長，鈴木工芸センター所長ほか工芸センター職員6名

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者 なし

会議資料 令和3年度 旭川市工芸センター運営委員会次第

旭川市工芸センター運営委員会委員名簿

資料1 令和2年度事業報告書

資料2 工芸センター利用実績の推移

資料3 令和3年度 工芸センターの施策概要

1 開会

あいさつ 旭川市経済部長

2 議事

（委員長）

議事(1)「令和2年度事業報告」と(2)「令和3年度事業の概要」について事務局から一括して説明願いたい。

（工芸センター所長）

<議事(1)，議事(2)を説明>

（委員長）

今説明のあった内容に関して質疑応答を行います。

（委員）

資料3の施策概要で，業界が抱える課題の中に「新規の販売ルート開拓が困難」とあるが，家具建具の産業の中で特徴的に困難な事例はありますか。

（工芸センター所長）

いろいろな業種によって販売先，販売ルートは明確に違ってきます。高額な家具がインターネットで販売されるなど，新たな販売チャネルが出てきたことに対応することが必要になってきています。ここ5～6年家具組合と協働で取り組んでいる海外の販路拡大に向けた JAPAN ブランドの構築事業では，国の資金なども活用しながら経済発展の著しい東南アジア地域などにものを売り込んでいきたいと考えています。販路開拓は家具や木製品だけでなく様々な業界が取り組んでいますが，輸出する国により販売表示や，通関，ルートの問題があり，使われる環境に合わせた製品作りが課題であると認識しております。工芸センターではそのような部分に対する支援を手厚くしていきたいと考えています。

(委員)

家具組合の一部の方からの意見ですが、工芸センターの施設利用に関して昔と今とでは違っている部分があり、対応についても横柄なところがあるのではないかと意見がでていました。工芸センター所長には綱紀肅正をお願いしたいと思っています。

(工芸センター所長)

これからも人材育成と教育については徹底していきたいと考えており、それについては申し訳ないと思っております。施設利用に関して昔と今が違うという部分についてですが、例えばコンピュータ制御で機械を操作する NC 加工機で言いますと、機械の導入当時は、利用者に最先端技術を広く使っていただき、生産性や付加価値の向上に取り組んでもらうため、工芸センター職員が製品作りやコンピュータプログラムの製作や機械の操作などの支援を行っていました。パソコンが不得意な方に対しては、二人三脚でデータ作成を行っていたというこれまでの経過があります。当時のプログラムソフトはかなり高額であり、利用者個人での購入は難しいことから、そうせざるを得ない部分もありました。導入から 25 年ほど経ち、現在は無料で使えるプログラムソフトが出てきたことや、パソコン普及率が上がり自社でパソコンを用意できる状況になっていることもあり、他の貸出機械と同じように利用者自身が NC 機械を使うように変わってきています。また、昔は NC 加工やレーザー加工などを請け負う企業が地域にありませんでしたが、現在はそれを生業にしているメーカーがあります。工芸センターでは今後も利用者の皆様にプログラムの作り方や機械の操作方法について習得していただけるような支援を手厚く行ってまいります。

(委員)

NC 加工機の話がありましたが、以前、それまでは可能だった量産品の加工が、工芸センターではきなくなったと聞きました。そのため、自分自身は他の NC 加工業者をお願いするようになりましたが、現状はどのようになっていますか。

(工芸センター所長)

工芸センター利用者に対する量産品の加工についての制限は、以前から特に設けてはいません。当時の状況はわかりませんが、現在は施設を利用している他の企業も量産品を作っています。他にも制限があるとすれば、条例で制定されている 9 時から 5 時までの使用時間です。労基法や働き方改革の関係や老朽化している機械の保全の観点から、昼休みは休みを取るようお願いしています。

(委員)

旭川木のモノ組合や旭川工芸デザイン協会所有の展示用段ボール什器を、工芸センターで保管できなくなったので、今後はクラフト団体の方で保管してほしいと言われました。クラフトは個人事業主が多く保管する場所の確保が難しいことから、組合の方の比布工場に置いてもらうことになりましたが、使用する際には比布まで行き、更にその方にもご足労をかけてしまうので、もう少し工芸センターと話し合い、折り合いを付けられたら良かったと思うのですが、どうでしょうか。

(工芸センター所長)

段ボール什器については、工場の出入口に立てかけられ防火扉が開かなくなっている状況だったため、消防点検でその場所に物を置かないように指摘されていました。段ボール什器はクラフトの実行委員会が補助事業を使って所有した物で、補助検査対象期間は保存しておかなくてはならず、展示会の支援の一環として置いていました。他に工芸センターで保管できる場所がなく、木のモノ組合の方にご相談したところ、ご理解いただき保管場所を移動していただきました。

(委員)

現状ではやむを得ないと思っていますが、工芸センターの方でもこれで解決ということではなく常に頭に入れておいていただきたいと思います。

(委員長)

続いて議事の(3)その他に入ります。個々では最近の現状についての情報共有をしたいと思っています。木材を扱う我々にとって、大きなニュースになっている「ウッドショック」について、旭川地区の各業界の現状についてお伺いします。ウッドショックで国産材が注目され、これからますます使われるようになってくると思いますが、流通量はどのようになっていますか。

(委員)

供給量が不足が話題になっていますが、最大の問題となっているのは住宅向けの2×4やSPF材、ヨーロッパから入ってくる在来工法用のホワイトウッドの集成材や羽柄材などが、価格はもちろん量的に入らない状況が続いております。北米に関してはピークは越えたとのことですが、以前の価格と比較するとまだ倍以上、ヨーロッパのホワイトウッドはまだピークを迎えておらず価格は倍以上という状況であり、物も入ってこないため現場に支障を来しております。この状況は丸2年くらい続くのではないかと考えているのですが、この状況を脱したとしても、以前のような供給量や価格は期待できないと思っています。広葉樹に関しては、特に米材広葉樹に関しての入手が難しい。その中では、オーク系やブラックウォールナットについては見通しが見えない状況です。ホワイトアッシュについては挽いてくれるところが少なくなっているせいもあって、なかなかオファーがとれない状況です。アメリカ国内はやや需要は落ち着きを取り戻しつつありますが、中国関係の需要が旺盛なのでオファーしていただける物がありません。また、道産広葉樹についても供給量が増える状況にはまだなっていません。タモやカバ、ニレといった物は量的な余裕がありますが、需要はナラに偏っています。道産材は輸入材と比較すると幅や長さ、目合い、節の問題がありますが、十分ご理解いただいて、少しでも需要を満たすため限られた資源量の物を上手に使っていただければ、使用可能な材料が増えるのではないかと感じています。

(委員長)

お話を聞いていますと針葉樹だけでなく広葉樹についても出てくる量や価格も切迫した状況にあるのかなと感じました。それでは、家具業界でも国産材、道産材の使用が増えてきている状況下ではありますが、家具組合の現況を話していただけますか。

(委員)

家具組合というよりは企業経営者としての話になると思います。当社は特殊家具がメインでやっていますが、コロナ禍で家具の需要が冷え込んでいます。ウッドショックで、製材も合板類も組合要請が来始めている状況下です。木材については家具の需要が落ち込んでいることもあり、会社としてひどく困った状況までにはなっていませんが、コロナ収束後の木材需要は不安があります。先ほど、来年の春先までウッドショックが続くのではないかとこの予想がありましたが、今年の年末くらいまでにはある程度物事が回復してくれるといいなと思っています。コロナの収束が来年4～5月になった場合は苦しい状況が続くのかなと思います。木材関係合板関係の各社と相談をしながら乗り切っていければと考えています。

(委員長)

コロナの状況ですが、陶芸業界はどうなっていますか？

(委員)

現状は、コロナの影響もあり陶芸に携わっている人達が非常に少なくなっています。陶芸業界

では若い人が育ってきておらず、継続していくためには若い人たちが参加できるような取組を行わなくては、じり貧になってしまうと危惧しています。旭川陶芸は北海道の中で非常に重要な位置を占めていましたが、先人の先生達が亡くなった後、どういう風に立て直していくのかということが見えていない状況です。このようなことは家具作りの方も同じような状況にあると思っています。ものづくりは、量産体制のもの以外に量産しない手作りの良さのものもあります。陶芸では生計を立てていくのが難しくなっています。今までの伝統を含め、技術を若い人に継承していくような取組を行っていただきたいというのが私の意見です。

(委員長)

木のぬくもりや土の温かさなど、手作りの良さを旭川から発信していくべきだと思いますし、ものづくりと人づくりを引き続きやっていかななくてはならないと思います。教育機関の委員の皆様にもお話を伺えないでしょうか。

(委員)

私は技術専門学院で家具づくりを教えています。ここ数年、新生者が減ってきている状態です。少子化が主な要因だと思われませんが、技術専門学院全体が減ってきており造形デザイン課では定員20名のところ約半分になっています。学院のルールとして定員の半分以下の状態が数年続くと定員が減っていくという状況になってしまいます。造形デザイン科は今年が1年目であると数年は猶予がありますが、この先どうなるか危惧しているところです。

(委員)

私は札幌の東海大学で勤務しておりますが、授業をするという意味においては制限の多い一年半だったなと思います。コロナで「人に会えない」とか「遠隔になってしまう」「手触りが無い」「そこに物が無い」という状況になり、「ものづくり」をキーワードにしている教育とオンラインとの相性の悪さに愕然としたというのが最初の印象でした。当初は「目の前のものを止めない」、「教育を止めない」ということで精一杯でした。コロナ禍の中、オンラインでできる「ものづくり」を考え続けてきたわけですが、1年半が経過し、それまで考えてもいなかったことがオンラインでもできるという新しい発見もありましたが、それとは逆に絶対できないことも見えてきました。東海大学が札幌に来てからも、毎年旭川デザインウイークに学生を連れて見学させていただく機会を作っていました。しかし、コロナ禍の一年は目の前のことを止めずに授業をするために、そのような余白の時間が全くなくなっていました。バスをチャーターしていろいろなものを見に行くとか、先生と研究室で会話し話を広げていくなどの機会が失われてしまいました。若い人にとって、手触りが素敵で心がときめくみたいな、余白として感じられる時間がなかったという反省があります。教育機関に限らず、いろいろなところで若い人には見たり触れたりという経験をさせてかないと、どんどん興味を持つ機会が失われていくと感じた1年半でした。

(委員長)

教育を止めない1年半だったというお言葉に共感しました。私たちにとっても、ものづくりを止めないという期間だったと思います。

(委員)

教員養成の教育大学の現状として、入学者数が減少している専門学院と同じように少子化と直面しています。今、全国的な動きとしては国立大学の教育学部が地域包括で連携して教育課程を組むという動きが加速しています。金沢大学と富山大が実施を予定しており、四国4県でもネットワークの連携構想を進めている最中だと聞いています。また、栃木の宇都宮大と群馬大のように実際運用

しているところもあります。授業実態はオンラインでの遠隔授業と対面授業、地域によってはハイブリッドでやっています。その一方で、私が懸念しているのは、地域包括連携により授業体系が変化している中で、地域性を教育にどれだけ組み込めるのかということなのです。平成30年から運営委員をさせていただいていますが、実態調査の結果で家具、建具、小木工、窯業の4つの業界の事業者数を見ると全体で数が減ってきているのが気になっています。地域の特色ある産業や地域資源をいかに次世代につないでいくかというところを、誰かがきちんと意識して取り組みを進めていかないと困る時代が来るのではないかと懸念しています。ただ、明るい兆しとしては、コロナ禍の自粛期間は、個別で行う作業を深める時間になっていると思います。木材協会の三津橋委員がお話しされたように、今ある道産材の需要を高められるような加工方法を色々研究できるような助成を工芸センターで工夫していただいて、内需を拡大していくことを考えていってほしいです。また、オンラインなどの遠隔の情報機器やシステムを使いながら各地と繋ぎ、各地と地域性で相互交流するというようなことを行いながら、各業界の次世代教育については二つの方向を同時に対応していかななくてはならないと考えています。

(委員長)

会議全体を通して御意見ご質問がある方はいらっしゃいませんか。

(委員)

追加で要望も含めてですが、工芸センターの意義のところ、ものづくりの大切さということについて皆さんと共有できるのではないかと考えています。最近ものづくりの大切さが非常に軽んじられていると感じています。以前は中学の美術の授業は週2時間あったが、今では中学2年生になると0時間になるとのことです。若い人たちの中でもものづくりの大切さを継続していかないと、一番大切な部分がないがしろにされているように感じます。将来のことを考えると、ものづくりについて中学の頃から伝えていかないとだめだと考えています。ものづくりの大切さを皆様に共有していただきたいということが私の本当の意見です。

(委員長)

私も同感です。手を動かして物を作るということが減っているという実感があります。ものづくりに携わっていただけるような感性を磨くような教育になればいいなと考えています。

(委員長)

他に御意見、御質問等ありますか。

(委員一同)

特になし

(委員長)

それでは以上で運営委員会の議事を終了とします。

8 閉会